

報 告

リオデジャネイロパラリンピックに向けた 理療科教員養成施設の取り組み

宮本俊和¹⁾、佐藤卓弥¹⁾、廻谷滋¹⁾、林健太郎¹⁾、内藤知華¹⁾
山本小百合²⁾

1) 筑波大学理療科教員養成施設

2) 筑波大学スポーツResearch & Developmentコア

キーワード パラリンピック、視覚障害者スポーツ、鍼灸マッサージ、理療科教員養成施設

I. はじめに

リオデジャネイロパラリンピック競技大会が、2016年9月7日から18日までの12日間ブラジル連邦共和国で開催された。理療科教員養成施設卒業生の廣瀬誠（愛知県立名古屋盲学校教諭）選手は柔道60kg以下で銀メダル、岡村正弘（千葉県立千葉盲学校教諭）選手は銅メダルを獲得した。理療科教員養成施設からも3名がスポーツ庁から委託されたハイパフォーマンスサポート事業の一環として視覚障害者柔道選手団に帯同した。

東京パラリンピック招致は、我が国のパラリンピックや障害者スポーツの知名度向上に大きな影響を与えている。2020年パラリンピック大会の開催地に東京が決定した翌年（2014年）に、パラリンピックの所管が厚生労働省から文部科学省に移管された。このことは、パラリンピックスポーツが、これまでのリハビリテーションを中心としたスポーツの考えからオリンピックと同様の競技スポーツの色彩を濃くしたことを意味している。

2011年8月に施行されたスポーツ基本法には、障害のある人を含めてすべての国民のスポーツ権が明文化されるとともに、「スポ

ーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」を目指し、国家戦略としてスポーツ施策を推進する方針が示されている。2015年10月に設置されたスポーツ庁は、「スポーツ基本法」の理念を実現するために、「スポーツ自体の振興にとどまらず、障害者理解の促進や共生社会の構築をはじめ、スポーツを通じた社会発展を図っていくこと」を使命にしている。

このように、ここ数年でパラリンピックスポーツに限らず、障害者のスポーツ環境を整えて、視覚障害者スポーツを振興することが我が国の使命になった。筑波大学理療科教員養成施設では、パラリンピアン競技力向上に向けた支援を始めている。本稿では、視覚障害者スポーツ選手への競技力向上に関する本施設の取り組みとリオデジャネイロパラリンピックでの競技支援について報告する。

II. リオデジャネイロパラリンピックでの日本選手の活躍

2016年リオデジャネイロオリンピックでは、日本選手の活躍が目立ちメダル獲得数も金メダル12個、銀メダル8個、銅メダル21個と、国別総合順位はロンドンパラリンピッ

ク11位から6位と躍進した。しかし、パラリンピックでは、銀メダル10個、銅メダル14個とメダル獲得数はロンドン大会より増えたものの金メダル獲得には至らなかった。

リオデジャネイロパラリンピックでメダルを獲得した視覚障害選手の内訳は、柔道で銀メダル1個・銅メダル3個、水泳で銀メダル2個・銅メダル2個、自転車で銀1個、陸上競技（盲人マラソン）で銀1個、銅1個であった。この内、水泳は木村敬一選手1名が4個のメダルを獲得した。性別の内訳をみると男性7名・女性3名でオリンピック選手と比べ女性の割合が少ない。また、メダルを獲得してきた競技は限られており、今後多くの競技でメダルが取れる体制を整えていく必要がある。

筑波大学関係者からは、オリンピックには10名出場し永瀬貴規選手が柔道81kg級で銅メダル、パラリンピックには10名出場し廣瀬誠選手が60kg級で銀メダル、岡村正広選手が銅メダル、木村敬一選手が競泳で銀メダル2個と銅メダル2個を獲得した。また役員、コーチ、コーチ医療スタッフ関係者29名が参加した。その他、様々な競技団体の研究開発を担当した筑波大学関係者は多数いる。



左：永瀬貴規選手
（オリンピック 柔道81kg級 銅メダル）
右：廣瀬 誠選手
（パラリンピック柔道60kg級 銀メダル）

筑波大学理療科教員養成施設の卒業生は、ソウルパラリンピック大会以降、夏季パラリンピック大会には、21名が出席しており、そのうち半数がメダルを獲得している。今回のリオパラリンピックには2名出席し、柔道で銀メダル、盲人マラソンで銅メダルを獲得している。

Ⅲ. 筑波大学理療科教員養成施設の取り組み

筑波大学が文部科学省に提出したミッション再定義には「障害を有するスポーツ選手の競技力向上に向けたサポート体制を医学医療系、体育系、理療科教員養成施設と連携して推進する。」と示されており、視覚障害スポーツの競技力向上は本施設のミッションの一つとなった。現在、本施設はブラインドパラスポーツの普及及びアスリートの競技力向上に取り組んでいる。本施設の取り組みを以下に紹介する。

1. ハイパフォーマンスサポート事業

ハイパフォーマンスサポート事業とは、オリンピック競技・パラリンピック競技のメダル獲得が期待できる競技をターゲットにアスリート支援や研究開発をする事業である。筑波大学ではスポーツ庁から委託を受けプロジェクト事業を行ってきた。本施設はリオパラリンピックに向けて2つの研究プロジェクトを担当してきた。

1) 障害特性に応じたメディカルチェック・コンディショニングの指標の研究開発
視覚障害パラリンピック選手と指導者に行った面接調査からメディカルチェック、フィットネステスト、コンディショニングサポートなどオリンピック選手に比べて不十分であり、ほとんどスポーツ医科学的サポートが行われていないことがわかった。

これらを踏まえて、視覚障害アスリートの障害特性に応じた体力測定法を行い、柔道競技を中心に健常者柔道選手とパラリンピック

選手の体力測定の違いを検討した。また、コンディショニングサポートとして強化合宿などで鍼マッサージを行ってきた。

2) ブラインド選手に対する各種競技情報のフィードバックシステムの研究開発

視覚障害アスリートは視覚情報を得ることが困難なため、試合会場で対戦相手の試合情報を確認することや指導者からの指摘を理解する上で支障をきたすことが多い。そのため、ビデオ撮影した画像をタブレットに転送するシステムの開発や可動性の優れたフィギュアを用いた指導法を開発した。

2. 視覚障がいパラリンピアン競技力向上とコミュニティスポーツ参加を目的とした調査研究

住友生命健康財団2014年度及び2015年度スミセイコミュニティスポーツ推進助成プログラムの採択を受けて、全国の盲学校理療科に在籍する学生620人のスポーツ活動に関する調査を行った。その結果、盲学校ではパラリンピックスポーツがほとんど行われていなかった。また、盲学校で行われていたスポーツを卒業後続けている者は少なかった。スポーツを続けていく上での障壁となっていることは、スポーツを行う場所が少ないことやスポーツに関する情報が少ないことが挙げられた¹⁾。

3. 視覚障害パラリンピアン競技力向上とキャリア支援に向けた鍼灸マッサージによる支援

筑波大学社会貢献プロジェクトが採択され、「パラリンピック・オリンピックアスリートに向けた鍼灸マッサージによる競技支援」テキスト²⁾を作成して、オリンピック、パラリンピアンに対する鍼灸マッサージによる支援スタッフの育成を行っている。また、盲学校等でスポーツ鍼灸の出前授業を行った。

4. ブラインドパラスポーツ・ミーティングを主催

ブラインドスポーツとハイパフォーマンスをキーワードに、月1回開催し、ブラインドパラスポーツの情報交換会を行っている。また、毎年シンポジウムを開催している。

参加者は、河合純一（パラリンピアンズ協会会長）、齊藤まゆみ（本学体育系准教授）、原田清生・寺西真人（附属特別支援学校教諭）、パラスポーツ選手・指導者、眼科医などである。ブラインドパラスポーツに関する冊子を作成した³⁾。

5. 視覚障害アスリートのコンディショニングサポート

視覚障害者柔道、盲人マラソン、筑波大学関連パラリンピアンに強化合宿などで鍼灸マッサージによるコンディショニングサポートを行っている。



リオパラリンピック視覚障害者柔道日本チーム選手団

6. 視覚障害パラリンピアンへの支援を基にした筑波型インクルーシブ教育システムの構築

平成28年度教育戦略推進プロジェクト支援事業にスポーツ医学専攻から応募して採択された。本プロジェクトでは、筑波大学大学院人間総合科学研究科スポーツ医学専攻、理療科教員養成施設、附属視覚特別支援学校が連携して、筑波大学関係の視覚障害パラリンピアンへの医科学的サポートをすることを目的としている。

本年度は、ゴールボール大会に参加し、試合をビデオカメラで撮影して、画像分析を行うとともに、マッサージやストレッチなどのコンディショニングサポートを行った。

IV. まとめ

本稿では、リオパラリンピックに向けた本施設の取り組みを紹介した。視覚障害アスリートの競技力向上に向けた視覚情報フィードバックの研究開発は、理療科で学ぶ生徒の学力や臨床技術向上に向けた教育開発につながる可能性が高く、引き続き検討する必要がある。

また、2020年東京に向けてリオまでの活動を引き続き行うとともに、東京パラリンピックを目指す学内外のアスリートに対する鍼灸マッサージによる支援体制を検討している。

V. 文献

- 1) 筑波大学人間系パラリンピック研究支援グループ：視覚障がいパラリンピアンへの競技力向上に向けた調査研究報告。筑波大学理療科教員養成施設。東京。2016
- 2) 筑波大学理療科教員養成施設編：パラリンピック・オリンピックに向けた鍼灸マッサージによる競技支援。筑波大学理療科教員養成施設。東京。2015
- 3) ブラインドパラスポーツMTG：2016年版視覚障がいパラリンピックスポーツ。筑波大学理療科教員養成施設。東京。2016